

新年のご挨拶

院長 奥 雅志



平成 27 年新年明けましておめでとうございます。
年頭にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

羽幌病院は、昨年4月から内科医4名(佐々尾医長、和田医師、佐藤医師、阿部医師)、小児科 1 名(高橋医長)、整形外科 1 名(久田医長)、外科 1 名(私)の計7名の常勤医となったことから、長年の懸案でした小児科医と整形外科医が新しく加わって患者さんや住民の皆さんにこれまでよりはご不便を掛けなくてすむことになりました。さらに、10月からは貞本副院長(内科)を焼尻診療所から迎えて勤務医が8名態勢になりました。それに伴って、12月からは午後の診療が月曜日と金曜部に限って再開されました(担当医: 貞本副院長)。今年も現状の診療体制をできる限り維持してゆく方針を考えていますが、4月からの新年度については現在のところ調整段階であります。

さて、羽幌病院が一昨年から取り組んできました「巡回診療」「出前講座」については、多くの患者さんや地域の皆様に利用していただき好評であったと考えていますので、今年も引き続き継続して実施する予定ですし、自宅で療養されている方への「訪問診療」も少しずつ拡大していく計画です。ここで、すでにご存知かもしれませんが、昨年開始して皆さんに広報誌などでPR しています「レスパイト入院(一時短期入院)」について今一度説明します。これは自宅で介護している家族の方などの負担を軽減したり支援するために、介護を受けている患者さんが短期入院するものです。対象となる患者さんには、いくつかの条件がありますが、ぜひ活用していただきたいと思います。申し込みなどの詳細は、病院の「保健医療連携室」までご連絡ください。

昨年3月に始まった小・中学生を対象とした病院体験「キッズセミナー」は12月に第2回目を開催しました(参加された生徒さんは1回目は42名、2回目は29名でした)。また、9月には地域医療を担う青少年育成事業として北海道医師会の主催で羽幌町中央公民館において羽幌中学校1年生47名が参加して医療体験学習が開かれ長瀬医師会長の「夢を育てよう」と題する講演がありました。同時に医療機器など手に触れて最新の医療の一端を身近に感じてもらう機会になりました。このような体験が、将来医療機関に従事する子どもが増えることに繋がることを期待したいものです。

本年も羽幌病院は、この地域に「開かれた病院」であることを目指して、また住民の皆さんの「頼りになる病院」となるように病院職員が一体となって【地域の生命と健康を守る】ことを推進していきたいと思っておりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

春夏秋冬

編集
道立羽幌病院
サービス向上委員会
院外報部門
第37号

第2回キッズセミナーを開催しました

キッズセミナーにつきましては、平成26年3月に開催し、参加した子どもたちに好評でしたが、平成26年12月3日(土)に第2回目のキッズセミナーを行いました。

今回は羽幌、苫前、初山別の3町村から小学四年生から中学三年生までの29名の参加がありました。

今回の内容ですが、子どもたちは4班に分かれ、院内(院長室、医局や手術室、診察室、臨床検査室)を見学し、その後、各ブースで体験を行いました。

「医師」ブースでは、腹腔鏡手術に使用する機械の操作やギプスを巻いて、ギプスを外す体験をしました。

次に「放射線」ブースでは、CT スキャンでは食物を輪切りにして撮影し、MRI では実際に MRI の中に入り内部がどのようにになっているか体験し、また、MRI にはどれだけの磁力があるのか糸をつけたクリップを近づける実験などを行いました。

そして、「リハビリ」ブースでは、水圧刺激を使って全身をマッサージするウォーターベッド、関節を温めて血行を向上させ、炎症や痛み、こわばりを抑制するなどの目的で行われるパラフィン(ろう)浴などを体験しました。

さらに、「薬局・栄養」ブースでは、薬局は粉末化や軟膏練り、栄養では食べ物に含まれている糖分がどのくらいあるのかをクイズ形式で説明などを行いました。

今回、参加された子どもたちは各ブースにおける病院の仕事に興味津々で、そして、とても楽しかったとの声が多かったです。



←医師ブース



←リハビリブース



放射線ブース→



栄養・薬局ブース→

BLS講習会を行いました

平成26年11月20日(水)にBLS(BASIC LIFE SUPPORT)講習会が行われました。この講習は毎年行われており、今年度は奥院長による講演と参加者の演習による2部構成で行われました。

院長による講演では院長自身が過去の経験に基づいて救命のあり方について話されました。

また演習では意識を失った人が現れたケースを想定し、声かけ、胸骨圧迫からAEDの使用の流れについてダミー人形を使い講習を行いました。

ダミー人形を使った演習では看護師さんなど手慣れた人が多かったですが、初めて演習を受けている人も若干名おり、ぎこちないながらも懸命に演習に取り組んでいました。



奥院長の講演



ダミー人形を使った演習

羽幌での研修について

江別市立病院

なかの しんたろう
中野 真太郎 研修医



初めまして、こんにちは。

研修医2年目の中野真太郎と申します。

江別市立病院から一か月間の短期研修として、2014年11月道立羽幌病院で研修させていただきました。

羽幌町を訪れたのは高校生の頃にラグビー一部の練習試合で訪れて以来8年ぶりになりましたが、羽幌高校前を通り過ぎる時に当時の懐かしい記憶が蘇ってきました。

慣れない土地に行くので最初は不安でしたが、患者様や病院で働く方々皆様温かく迎えてくださり、とても楽しく有意義な研修でした。

また、羽幌といえば甘エビ、ということで海鮮料理を堪能することができました。

最後に、皆様によく聞かれた質問ですが、阿部昌彦先生は副院長として江別市立病院で元気に勤務されていますので、紙上にて御報告申し上げます。

ありがとうございました。

クリスマスカードのプレゼント

当院ではクリスマスの時期に毎年、クリスマスコンサートを行っていますが、今回は暴風雪による悪天候により残念ながら中止となりました。

次回のクリスマスにはコンサートを行う予定でおりますので、楽しみにしていただければと思います。

なお、クリスマスコンサートに併せて毎年行っております患者様へのクリスマスカードのプレゼントにつきましては平成26年12月22日(月)に行いました。

奥院長と佐々尾先生がサンタに扮装し、3階病棟の各部屋でクリスマスカードのプレゼントをし、記念撮影を行いました。

外は風が強く、とても寒かったですが、患者様には心暖まるクリスマスになったのではないかなと思っております。

ちなみに、次回のクリスマスカードプレゼントの時にはサンタさんの他にトナカイが加わる予定となっております。



← サンタさんが病室へ移動中です。

クリスマス企画に協力して →
くれたスタッフです。
お疲れ様でした。



「癌性疼痛と適切な麻薬使用」について

医療用麻薬の主な効能又は効果は、激しい疼痛時における鎮痛、鎮静、鎮痙であり、特にその鎮痛効果により、がん疼痛のある患者において痛みを緩和することができる一方、医療用麻薬は乱用されれば保健衛生上の重大な危害を生じるおそれがあることから、その使用や管理は法令により厳格に規定されており、その取り扱いには十分な知識と注意が必要となります。

これらを踏まえて、平成27年1月15日(木)に「癌性疼痛と適切な麻薬使用」と題して薬局主催による研修会が行われました(講師:植野薬剤師)。

癌性疼痛の基礎として、痛みの出現頻度や強度、原因、種類について説明があり、除痛の基本として、できる限り経口での投与、定刻での投与が望ましいこと、麻薬の薬理(鎮痛作用、呼吸抑制作用、中枢作用)などの話がありました。

そして、麻薬使用に当たっての管理の仕方について期限切れになった麻薬の廃棄方法も含めて説明もあり、参加された方達は熱心に話を聞いていました。



患者－医療者パートナーシップ宣言

～当院では患者－医療者パートナーシップ宣言の強化に努めます～

- 医療の主役は患者さまです。
- 私たち医療者は、患者様の病気の診断・検査・治療計画について、十分な説明をします。
- その上で納得して医療を受けられるように支援いたします。
- わからないことは何でも、お気軽に相談して下さい。

～ブログ 始めました～

このたび、羽幌病院のことをより知って頂くため、病院や羽幌町の情報を提供するブログを作成しました。是非、ご覧ください。

北海道立羽幌病院のブログ

<http://blog.livedoor.jp/haborohp/>